第３９回「ハートミーティング」意見交換の内容について
ＴＡＳＫＹ（タスキー）

★参加メンバーからの主な声

○　ＴＡＳＫＹについては，平成２２年度採用職員の有志メンバーにより，平成 22 年９月に市政改革の実現を目的として設立した。設立後は，職員提案を通じて市政改革の実現に寄与することとし，政策提言部門における提案に向けて，「京都市のホームページの改善」をテーマに論文の作成に取り組み，平成２４年６月に論文を提出したところである。

○　共汗やワーク・ライフ・バランスについて，市長の考えと一致する部分が多く，少し自信になった。また，職員が市民として公共的な活動を行う時間を確保することが，今後，市民協働を進めるうえでの課題の一つではないかと感じた。

○　今後，実際に地域で活動を行いたいと思っているが，市長から，行政と地域の両方を分かっている職員が地域に刺激を与え目標を高めていくべきだと聞き，背中を押していただいたような気持ちになった。

○　市長の前向きな姿勢と直接向き合ったことで，今後業務を遂行するに当たり，自分自身も前向きな姿勢で臨もうという意気込みになった。

★市長からのコメント

○　「市民目線」という言葉は気軽に使っていいものではないが,「市民目線」に立って仕事をするということは，市民の「今行政にしてほしいこと」を吸い上げて実行することではなく，市民の立場でじっくり話し合い，共に考え，行動することである。

○　新しいことをすることは良いことだが, 独断先行はいけない。周囲を見ながら，誰かを動かす，陰で支える役割も大切であり，トップダウンとボトムアップの融合が重要である。

○　民間企業では，資格を取得しないと生き残れないシビアな世界で人が育つが，公務員であっても積極的に自己投資すべきだ。特に，コミュニケーションに関するテクニックや知識は仕事の価値を高めることに繋がるため，どんどん身につけていってもらいたい。

○　真のワーク・ライフ・バランスでは職員が地域の活動に携わることを掲げており，そのような行政と地域での経験から，区行政に若い視点で刺激を与え，10年から２０年後に日本一になれるようもっと区を活性化してほしい。